

教授(クリティカルケア看護学)応募要項

I 担当分野

担当分野	
健康支援看護学領域	クリティカルケア看護学

クリティカルケア看護学の教育及び研究、ならびに大学運営に関する業務に従事していただきます。

1. 学士課程:クリティカルケア看護論、救急看護援助論、看護研究、看護学統合実習、他
2. 博士前期課程:クリティカルケア看護学特論・演習、臨床薬理学、クリティカルケア看護 CNS コース科目・実習、
医学研究科診療看護師コース科目、特別研究/課題研究、他(クリティカルケア看護 CNS 育成
のための急性・重症患者の看護に関する講義・演習・実習および修士論文の研究指導)
3. 博士後期課程:クリティカルケア看護学特講、健康支援看護学特講演習、特別研究、他
(クリティカルケア看護に関する講義・演習および博士論文の研究指導)
などの科目をご担当頂く予定です。

II 応募資格

(1)～(6)を全て満たすこと

- (1)博士の学位を有する者
- (2)当該領域に関する一定水準以上の研究業績を有している者
- (3)准教授または講師としての大学における教育経験を有すること
- (4)看護師免許を有し、原則3年程度の臨床(実践)経験を有すること
- (5)看護学専攻の教職員と協働して、大学運営を行える者
- (6)名古屋市立大学大学院の教授としてふさわしい人格と識見を有すること
- (7)その他、クリティカルケア看護 CNS コースの教育経験を一定期間以上、有することが望ましい。

III 書類作成上の注意

1 応募書類

- | | |
|---|-------|
| (1) 履歴書 (別紙様式1) | 1 部 |
| (2) 教育研究活動・マネジメント実績・研究助成・特許等一覧・臨床活動 (別紙様式2-1～2-5) | 1 式 |
| (3) 業績目録 (別紙様式3-1～3-5) | 1 式 |
| (4) 業績集計表及び個人票 (別紙様式4-1～4-5) | 1 式 |
| (5) 論文(原著)別刷(10 編以内、コピー可) | 各 1 部 |
| (6) 別刷論文の要旨 (別紙様式5) | 1 部 |
| (7) 抱負・プロフィール(別紙様式6) | 1 部 |
| (8) 照会可能な方2名以上の氏名・所属・連絡先もしくは推薦状 (あることが望ましい) | 1 通 |
| (9) 上記(1)～(8)を保存した CD-R | 1 枚 |

2 記載要領

様式は <https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/position/>より Word・Excel のファイルをダウンロードして利用のこと。履歴書およびエクセルファイルの様式を除き、ワードプロセッサなどで作成した印刷文字(原則 12 ポイント)を使用する。

履歴書およびエクセルファイルについては、各項目に設定されている文字ポイントを原則使用すること

(1) 履歴書（別紙様式1）

- 1 氏名(ふりがな)・性別
- 2 顔写真(縦4cm×横3cm)右上添付
- 3 生年月日・満年齢(記載時点の満年齢)
- 4 現住所、勤務先の住所を記載
- 5 電話番号・メールアドレス
- 6 学歴(高等学校以降を記載。「制度」欄については、在学期間年数ではなく、標準修業年限を記載すること。「該当を囲む」欄については、原則、高校・大学は「卒」を囲む。大学院については、修了している場合は「修」、満期退学等で退学している場合は「退」を囲む。)
- 7 学位(学士、修士及び博士、学位記番号、授与大学、授与年月日を記載)
- 8 職歴(所在地は市区町村まで記載。勤務した診療科名ごとに記載する。
 - 1) 同施設で転科した場合は個別に記載する。
 - 2) 副看護師長、看護師長などの昇任人事も別個に記載する。
 - 3) 空白期間のある場合は説明を付ける。
 - 4) 海外留学または海外出張(3ヶ月以上)は職歴に記載する。「勤務先」欄に海外での受け入れ施設名、「所在地」欄に国名、「職務内容」欄に身分を原語で記載する。
 - 5) 大学・大学院でティーチング・アシスタントの勤務歴がある場合は、勤務先、職務内容を記載する。
- 9 資格・免許(国家資格<登録番号も記載>、その他免許等を記載)
 - 1) 認定看護師、専門看護師、特定看護行為研修などの有資格者は研修期間、取得した施設・大学他名、認定(免許)番号を記載する。更新した日付も記載する。
 - 2) 海外の正看護師などを取得した場合は免許番号、取得した国・地域を記載する。
- 10 所属学会(「主な所属学会」をあげ、役職名(理事・評議員など)をカッコ付きで記載)
- 11 賞罰(学会賞などの受賞について記入する。賞の名称、受賞題名及び授与機関名等を記入)
- 12 研究テーマ

(2) 教育研究活動・マネジメント実績・研究助成・特許等一覧・臨床活動（別紙様式2-1～2-5）

- 1 教育実績欄の「内容」は2015年度(平成27年度)から2025年度9月末日までの実績として学部学生・大学院生などの教育に携わった具体的内容(講義・実習、修了者数、現在の指導者数など)を記載する。
 - 1) 講義の場合、科目名、必修or選択、担当者名、単位数、何時間(例えば30時間中6時間を担当した場合は6/30時間とコマ数ではなく、実時間を記載する(例:90分授業は1.5時間)。9/45時間と記載
科目責任者の場合は記載。内容には学年、学生数、講義内容と特徴ある教授法を記載。
 - 2) 演習の場合、科目名、担当者名(他、何名で実施)、単位数、何時間(例えば45時間中15時間を担当した場合は15/45時間ではなく、実時間を記載する(例:90分授業は1.5時間)。22.5/67.5時間と記載
科目責任者の場合は記載。内容には学年、学生数、グループ編成と何グループを担当、演習内容を記載。
ただし「時間/年」はコマ数ではなく実時間を目安として記載する(例:90分授業は1.5時間)。
 - 3) 実習の場合は、科目名、担当者名(他、何名で実施)、単位数、何時間(例えば、90時間の場合は実時間である135時間と記載する)科目責任者の場合は記載。
内容には実習施設数、何施設を担当、学年、学生数、グループ編成と何グループを担当したかを記載する。

- 4) 他大学での非常勤講師等も上記(1)～(3)に則り記載する。ただし実時間を記載する。(例:週1回7年間勤務したときは $1 \times 7 \times 0.2 = 1.4$ となり「1年5月」、週2回2年間勤務したときは $2 \times 2 \times 0.2 = 0.8$ となり「10月」)。
- 5) その他
大学、大学院に在職中に文部科学省大学設置・学校法人審議会教員組織審査でM号、マル号の資格判定を受けた場合は「教育実績」に記載する。
- 2 今までにカリキュラム策定などに関わった場合は、その詳細を記載すること
- 3 学会活動欄には所属するすべての学会をあげ、入会年、理事・評議員・査読委員などの役職名をカッコ付きで記載する。
- 4 研究助成欄は、公的機関あるいは民間の研究助成団体からの助成金を経年的に(古いものから順に)記載する(単位万円、間接経費を含む)。日本学術振興会科学研究費補助金は種目名(基盤(B)など)を記載する。代表研究者の場合は当該研究課題全体の金額と本人の受領分を記載する。分担研究者の場合は研究課題名の後に代表研究者名も記載し、当該研究課題全体の金額と本人の受領分を記載する。複数年度にわたる場合はその総額を記載する。本人取得分が明確に出来ない場合は不明と記載する。
- 5 特許等一欄は、特許名称、発明者、出願人、出願日、出願番号、公開番号、取得した場合は公告・特許番号を記載する。国外の特許を取得した場合は、その国名も記載する。
- 6 臨床活動欄は、病院・診療所・老人保健施設等で資格を利用して行った臨床活動について記載する。具体的には、臨床期間、施設名と勤務していた際の病床数、臨床内容(主な対象患者、業務内容)を記載する。常勤の臨床期間は、実際の勤務日数に即して〇年〇月で記載する(例:常勤として1年5か月勤務したときは「1年5月」)。非常勤の臨床期間は週1回勤務につき実施期間に0.2を乗じて計算して記載する(例:週1回7年間勤務したときは $1 \times 7 \times 0.2 = 1.4$ となり「1年5月」、週2回2年間勤務したときは $2 \times 2 \times 0.2 = 0.8$ となり「10月」)。
採用時に教育・臨床活動に関する職務履歴の確認を行う。
- 7 各欄が不足する場合は、次ページに引き延ばして記入すること
- 8 年号は西暦で記入すること

(3) 業績目録(別紙様式3-1～3-5)

1 論文業績

「原著」、「著書」、「総説」、「その他」欄は、英文・和文に群別したうえで、それぞれ経年的に番号を付して記載する。なお原著は、研究に関する業績と症例報告に分けて記載する。掲載が確定した論文であれば、出版前でも記載は可能。著者名は原文の順に共著者名もすべて記載し、本人の名前に下線を付す。書式用紙が足りない場合は同様の書式でページを追加する。

1) 原著

- ・ 原著(英文)は、PubMed収載誌に掲載(印刷中を含む)されたものを記載する。但し、査読審査を経たもののみを記載し、学会等の抄録は原著形式の記述であっても含めない。
- ・ 記載形式は、PubMedのSummary Formatに準拠し、「著者名(全員)」、行をかえて「論文の題名」、さらに行をかえて「掲載誌 発行年(西暦); 巻: 初頁-終頁 . PMID」の順に記載する。
- ・ 雑誌(和文)の場合: 著者名: 論文名, 雑誌名, 巻(号), 頁, 発行年の順に記載する。
(和)河野あゆみ, 金川克子: 在宅障害老人における閉じこもり現象の構造に関する質的研究, 日本看護科学会誌, 19(1), 23-30, 1999.
- ・ 応募者が筆頭著者またはCorresponding authorとなっている論文には、論文業績リストの番号に、筆頭著者の場合は*、Corresponding authorの場合は**を必ず付すこと。

- ・原著論文の中から主なものを10編以内選び、それぞれの別刷1部を添付する（コピー可）。

2) 著書

- ・「著者名(全員)」、「論文題名(分担執筆の場合)」、「編集者・監修者名」(3名以上の場合は2名までとし、3名以降は *et al.* とする)、「書名」、「出版社名」、行をかえて、「初頁-終頁」、「発行年(西暦)」の順に記載する。

3) 総説

- ・年報・紀要・記録集などは除く。和文の場合は、医学中央雑誌に掲載されたものだけを記載する。記載方法は原著記載の要領に準ずる。

4) その他

- ・上記の分類に該当しないが重要な業績と思われるもの(PubMed に収載されていない英文原著、受賞記念論文集、書籍の編者など)について記載する。記載形式は原著・著書の記載要領に準ずる。

- ・単行書の場合:著者名:書名, 引用頁, 発行所, 発行地, 発行年の順に記載する。

(和)鈴木正子: 看護することの哲学, 41-58, 医学書院, 東京, 1996.

(注)印刷中のものは校正刷または受理証明書のコピー(応募時点で採択されているもの)を添付する。

2 学会発表

- ・特別講演・招待講演・教育講演・シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップなど(国内学会は一般演題を除く、国際学会は一般演題も含む)について、経年的に記載する。演者名は原文の順に共同演者も含めて記載し、本人の名前に下線を付す。
- ・「演題名」(シンポジウムなどでは主題名の次に行をかえて「演題名」)、改行して「演者名」さらに改行して「学会名」「発表年(西暦)」「演題種別」を記載する。

(4) 業績集計表(別紙様式4-1～4-5)

記載例を参照し、以下の事項に留意して記載する。

- 1 「研究主題」は主なものを3項目以内で記載する。
- 2 「主な所属学会」をあげ、役職名(理事・評議員など)をカッコ付けで記載する。
- 3 様式4-1には、原著、著書、総説の発表年別の数を、学会発表は合計した数を記入する。原著は、PubMed 収載の欧文誌のみとし、共著欄の「主」とは筆頭著者または *Corresponding author* として発表した数、「共」とは第2番目以後の共著者として発表した数を示す。掲載が確定している論文は2024年度に含める。
- 4 様式4-2には、「欧文原著誌名」(PubMed 収載の欧文誌のみ)をアルファベット順に記載し、論文数を記入する。記載した Journal の2025年版 *impact factor* (IF) を四捨五入し小数点第1位まで記入する。共著欄の「主」「共」の分類は、様式4-1と同じとする(様式4-2はあらかじめ必要枚数をコピーして用いる)。様式は Excel フォーマットになっているので、論文数等は自動的に集計されるが、念のため確認されたい。
- 5 様式4-3には、「和文原著誌名」をあいうえお順に記載し、論文数を記入する。共著欄の「主」「共」の分類は、様式4-1と同じとする(様式4-3はあらかじめ必要枚数をコピーして用いる)。様式は Excel フォーマットになっているので、論文数等は自動的に集計されるが、念のため確認されたい。
- 6 様式4-4には、原著論文の論文題名、著者名(すべて)、雑誌名、掲載年、巻、号、ページ開始番号、ページ終了番号、2024年版 *Impact factor* (IF) (四捨五入し小数点第1位までの数値)を英文で入力する。
- 7 様式4-5には、記入例を参照して入力する。

(5) 論文(原著)別刷(PDFからの印刷可)

10編以内を添付すること。また、別刷のPDFファイルをCD-Rに添付する。

(6) 別刷論文の要旨(別紙様式5)

業績の中から、添付した論文について、論文題名、雑誌名、掲載年、200 字程度の要約(専門分野外の人にも解るよう、研究の独創的な点、意義を中心にしたもの)を邦文で解かりやすく記載する。書式用紙が足りない場合は同様の書式でページを追加する。

(7) 抱負・プロフィール(別紙様式6)

「1 教育・人材育成に関するこれまでの活動実績と特色、今後の抱負」

「2 研究に関するこれまでの実績と特色、今後の抱負」

「3 運営・マネジメント実績と本学着任後の学科運営に向けた方策」

「4 個人的プロフィール(自己紹介)」

を全体で、2,000 字程度で記載する。

(8) 推薦状(様式任意)

照会可能な方2名以上の氏名・所属・連絡先は必ず記載する。推薦状は、あると望ましい。

IV 公募期間

令和7年11月28日(金)～ 令和8年1月5日(月) 正午【必着】

V 送付先

応募書類は、封筒の表書きに「クリティカルケア看護学教授応募書類在中」と朱書きし、簡易書留あるいはレターパックプラスで送付してください。

宛先: 〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

名古屋市立大学大学院看護学研究科

クリティカルケア看護学分野教員選考委員長 山邊 素子

VI その他

本学は敷地内禁煙を実施しており、教職員には、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力いただいております。また、名古屋市立大学は「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、男女共同参画を推進しています。

選考の過程で候補者の方々に本学においてアンケート・面接・セミナー等をお願いすることがあります。なお、面接・セミナーに関する交通費や宿泊費は、応募者自身のご負担になりますことをご承知お願います。